

医師派遣機能に関する取組のイメージ

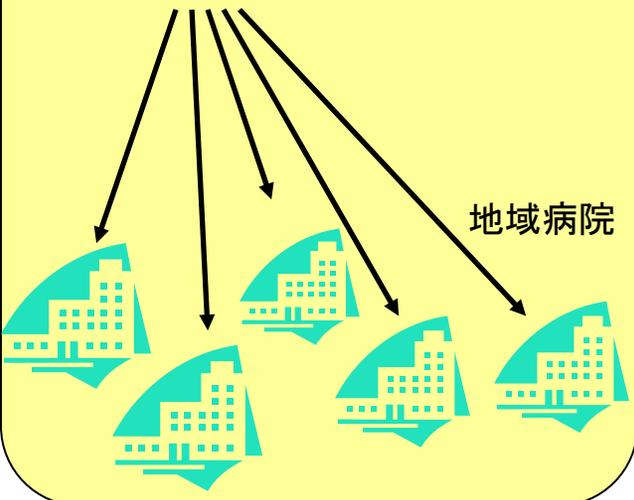
- 大学医学部の医局が従来担っていた地域の医療機関に対して医師を紹介する機能が弱まっている事情がある。
- 大学病院以外に医師を集めることができる魅力的な病院が存在する。

従来の医師の供給体制

大学病院の医師
プールから人材
を供給し、地域の
病院を支援



地域病院



取組のイメージ

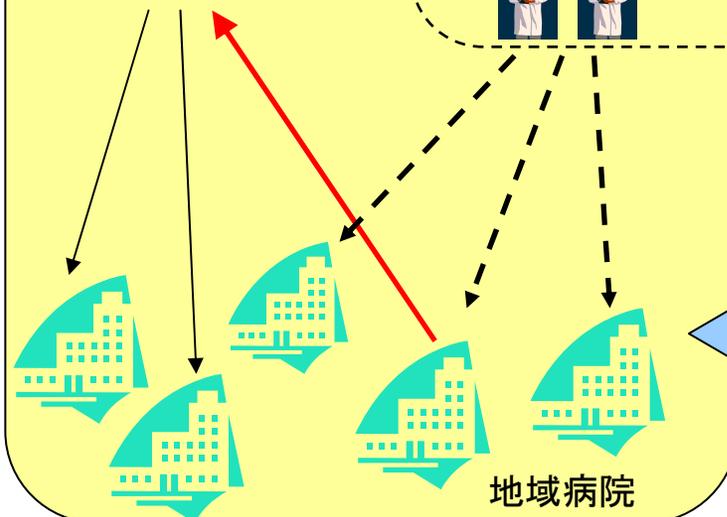
大学病院



A病院



地域病院



①医師を集めることができる
A病院においては、地域医療へ
の貢献を医師のキャリアアップ
に必要な要素として位置付ける

②医師不足の状況を踏まえて
A病院に医師の派遣を要請で
きる体制を整備

地域において、従来大学
医局が担ってきた医師の
派遣機能をA病院が持つ
こととなる

医師派遣の例(長崎県ドクターバンク事業)

- ① 県内の離島に所在する市町からの要請
- ↓
- ② 医師を全国的に公募して、長崎県職員として採用
- ↓
- ③ 県内の離島診療所に派遣

【特徴1】 県職員(常勤の地方公務員)として採用し身分を保証

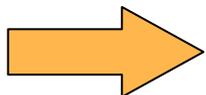
- 給与: 市町村が支給(1,600万円程度/年(免歴10年))
- 退職金: 県が支給

【特徴2】 有給の長期自主研修を保証

- 給与(自主研修期間): 市町村が支給(1,200万円程度/年(同上))
- 原則として2年間で1単位として、**1年半の離島勤務後、半年間の有給の自主研修を保証。**
これを繰り返す(2単位まとめて、3年間勤務後、1年間の自主研修も可)。

【特徴3】 24時間365日支援

- 県の離島・へき地医療支援センター専任医師が、国立長崎医療センターの協力の下、派遣医師の相談にいつでも応じる(必要に応じ、診療応援や代診医としての支援も)。



上記特徴により、離島勤務に際しての不安(専門外対応、離島勤務長期化、最新医学からの遅れ)を解消。**現在までに6名の採用・派遣実績(16年4月～)。**



医師派遣の例(宮崎県医師派遣システム事業)



- ①平成18年度から県職員として医師を採用
- ②2年間地域医療に従事すると最長半年間の長期研修が取得できる

【特徴1】勤務ローテーション

- 勤務ローテーションは、原則として4年間で1単位
- 2年間へき地病院勤務した場合、本人の希望する長期研修(半年を上限)に取り組める
- 残りの1年半は、県立病院等で勤務

【特徴2】長期研修制度

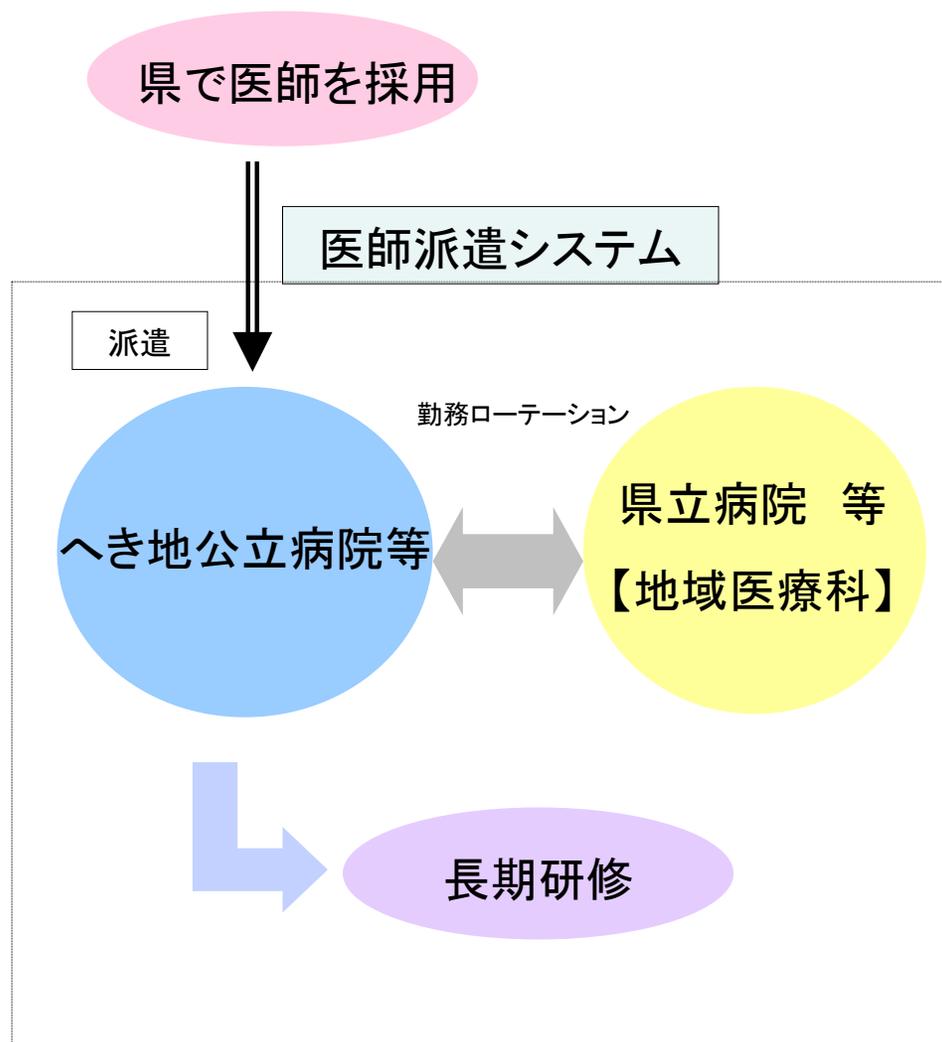
- 長期研修は半年間を上限として、医師本人の希望を反映し、先進的な取り組みを行っている病院や研究機関等で研修を行うことができる。

【特徴3】身分及び財政負担

- 県職員として採用
- 4年間のローテーション期間のうち、市町村派遣期間の2.5年間は市町村が、県立病院に勤務する1.5年間については、県が、それぞれ人件費を負担
- 研修経費は県が全額負担

今後4力年をかけて6名の医師を確保予定

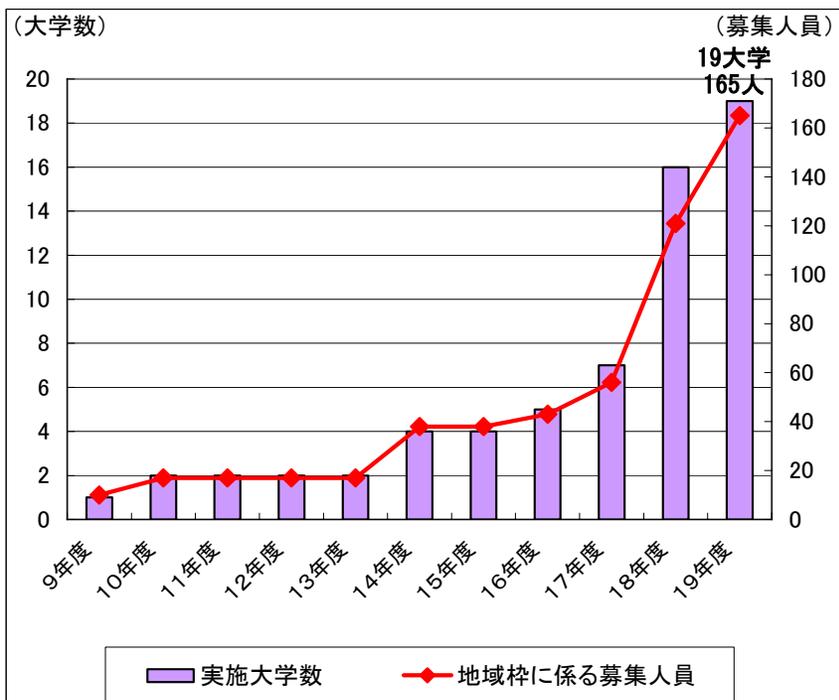
→ 現在1名採用し、H19年4月から派遣



地域医療科： 県内の医師確保や医療技術向上を支援するため、県立宮崎病院に医師教育・研修機能の充実及びへき地医師確保の受け皿として新設

医学部医学科における地域を指定（地域枠）した入学者選抜について

文部科学省資料



都道府県名	区分	大学名	入学定員	うち地域枠募集人員	導入年度
北海道	公立	札幌医科大学	100人	20人	9年度
青森県	国立	弘前大学	80人	20人	18年度
岩手県	私立	岩手医科大学	80人	5人	14年度
秋田県	国立	秋田大学	95人	5人	18年度
福島県	公立	福島県立医科大学	80人	8人	16年度
富山県	国立	富山大学	90人	8人	19年度
長野県	国立	信州大学	95人	10人	17年度
三重県	国立	三重大学	100人	10人	18年度
滋賀県	国立	滋賀医科大学	85人	7人	10年度
和歌山県	公立	和歌山県立医科大学	60人	6人	14年度
鳥取県	国立	鳥取大学	75人	5人	18年度
島根県	国立	島根大学	85人	10人	18年度
		島根大学（3年次編入学）	10人	3人	19年度
山口県	国立	山口大学	85人	10人	19年度
香川県	国立	香川大学	90人	10人	18年度
愛媛県	国立	愛媛大学	90人	5人	18年度
佐賀県	国立	佐賀大学	95人	8人	17年度
大分県	国立	大分大学（2年次編入学）	10人	3人	19年度
宮崎県	国立	宮崎大学	100人	10人	18年度
鹿児島県	国立	鹿児島大学	85人	2人	18年度
計		19大学	1,590人	165人	

注1) 地域枠募集人員は、島根大学及び大分大学の編入学を除き、全て推薦入学枠である。また、「〇〇人程度」「〇〇人以内」を含む。

注2) 平成14年度から、札幌医科大学は10人→20人に変更。

平成18年度から、福島県立医科大学は5人→8人に変更。

平成19年度から、弘前大学は15人→20人に、信州大学は5人→10人に、三重大学は5人→10人に、島根大学は5人→10人に変更。

地域枠と連動した県の奨学金制度の例

地域枠			奨学金制度				
大学名 (入学定員)	募集人員	応募資格	実施主体	対象者	対象人数	貸与額	返還免除
国立・秋田大学 (95人)	推薦入学枠30人 のうち5人	<ul style="list-style-type: none"> 県内高等学校卒業見込者で、 卒業後県内の医療機関への就職を希望する優秀な者 	秋田県	県内の高等学校出身者で、将来県内の公的医療機関等に勤務する意思がある者	10人 (うち地域枠入学者5人)	入学料相当額: 28万2千円 月額貸与額: 15万円	貸与期間の1.5倍の期間、県内の公的医療機関等において医師の業務に従事等の条件を満たす場合、全額免除
国立・鳥取大学 (75人)	推薦入学枠15人 のうち5人以内	<ul style="list-style-type: none"> 県内高等学校卒業生又は卒業見込者で、 県内の地域医療に貢献したい強い意志を持つ、優秀な者 	鳥取県	地域枠入学者	5人以内	月額貸与額: 12万円	貸与期間の1.5倍の期間内に、貸与期間、知事が定める病院等において医師の業務に従事等の条件を満たす場合、全額免除
国立・鹿児島大学 (85人)	2人 (推薦入学枠すべて)	<ul style="list-style-type: none"> 県内高等学校卒業生又は卒業見込者で、 県の地域医療、特に離島へき地診療に従事しようとする強い意欲と情熱を持つ、高等学校長が責任をもって推薦できる、優秀な者 	鹿児島県	地域枠入学者	2人	入学料:28万円 授業料:52万円 /年 生活費:7万5千円 /月 図書費:20万円 /年(4~6年次)	3年間、県内のへき地医療機関等において医師の業務に従事等の条件を満たす場合、全額免除